

低料金でバックアップ

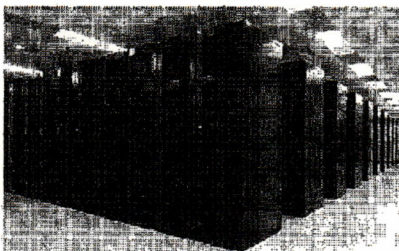
重要データ 札幌「疎開」を

北海道電力子会社の、ほくでん情報テクノロジ（札幌市、佐藤佳孝社長）は首都圏などの中小企業向けに、札幌市の拠点で重要データを低料金で自動的にバックアップするシステムを開発し

北電子会社

た。十一月から試験運用し、二〇〇八年春にもサービスを始め、企業の内部統制ルール（日本版SOX法）導入を〇八年度に控え、災害などに備えたデータ保護の動きが強まると判断した。

首都圏中小向け 災害にえ



サービス名は「イー少ない」とされる。メインXセキユアバックアップのデータ拠点が災害など「サービス」。札幌市内で機能不全になった場合同社が運営するデータセンターを活用する。札幌市は他の大都市に比べ、大地震の発生確率や台風など自然災害のリスクが

契約企業にはIDとパスワードを暗号化して札幌に転送する。企業側が転送する業務データを選び、日時を指定すると、夜間など定期的に自動で札幌に転送される。誤って

データを消去した際の復元にも活用できる。システム開発のアカタマ（札幌市、三原孝義社長）が開発した、データをパソコン上で短時間で暗号化する技術を活用。二回目以降に送るのは更新データのみだが、上書二百メガの場合それぞれ九万四千五百円と、中基つく日本版SOX法がと見込む。

転送する業務データを選び、日時を指定すると、夜間など定期的に自動で札幌に転送される。誤って

データを消去した際の復元にも活用できる。システム開発のアカタマ（札幌市、三原孝義社長）が開発した、データをパソコン上で短時間で暗号化する技術を活用。二回目以降に送るのは更新データのみだが、上書二百メガの場合それぞれ九万四千五百円と、中基つく日本版SOX法がと見込む。

転送する業務データを選び、日時を指定すると、夜間など定期的に自動で札幌に転送される。誤って

データを消去した際の復元にも活用できる。システム開発のアカタマ（札幌市、三原孝義社長）が開発した、データをパソコン上で短時間で暗号化する技術を活用。二回目以降に送るのは更新データのみだが、上書二百メガの場合それぞれ九万四千五百円と、中基つく日本版SOX法がと見込む。

東京から約1000キロ離れ、災害リスクが少ない地の利を生かす（札幌市内のデータセンター）